

No.	ご意見	回答	局	担当課
1	<p>(1) 人口激減に伴う財産基盤の対応と情報開示を要望する</p> <p>今後、熊本市においても人口、労働力人口の変動と減少が起こることが予測される。 したがって、市においても、市政の基本的任務の「集中と分散」が現在検討されていることと思うが、それらの市民への情報開示を積極的に実施することを要望する。</p>	<p>人口減少克服のため、平成28年3月に本市の人口の将来展望を掲げた「熊本市人口ビジョン」とその達成に向けた施策をとりまとめた「熊本市しごと・ひと・まち創生総合戦略」を策定した。 それらの取組とその進捗状況については、情報公開窓口による関係資料の公開や市ホームページでの周知等、様々な手法で市民に情報を発信しているところ。 今後もより多くの市民に情報が伝わるよう努めてまいりたい。</p>	政策局	政策企画課
2	<p>(1) 地域の高齢者による学校ボランティアについて</p> <p>私はなにか社会貢献をしたいと思い、中学校、小学校で学校農園の管理をしている。 市内の学校では、花壇や菜園の草が伸び放題のところが見受けられる。生徒も先生も保護者も多忙で草取りなどの時間はなさそうだ。 2000年からはじまった学校支援ボランティアの制度は現在どうなっているのか。ほとんど活用されていないように思う。 そこで、地域のお元な高齢者に呼びかけて、学校の草取り土作りのボランティアを募ってはいかがか。学校の環境緑化や食育のための野菜作りを行うこうとで、ボランティアの側にも収穫の喜びを味わうことができ、健康管理にもなる。「GB学校ボランティア」のような組織ができないか。「地域との交流農園」の標識はあっても全然地域の方の姿は見られない。</p> <p>※「GB学校ボランティア」⇒ ご意見者が発案された名称</p>	<p>地域の方の特技や専門性等を活かし、学校教育活動に関する様々な分野において学校を支援する「学校支援ボランティア」制度について、その活動者数は年々増加傾向となっている。 しかしながら、学校によっては登録者数や活動分野の偏りもみられるため、さらに地域への周知を図り、制度の充実を図ってまいりたい。</p>	教育委員会	学務課

No.	ご意見	回答	局	担当課
2	<p>(2) 都市計画道路について 熊本城を中心に、半径約2キロメートルで第一環状線がある。この路線は、熊本市の幹線道路網、2環状11放射線の中核である内環状線で、整備も大変進み、4車線区間もだいぶ延びてきた。 しかし、上熊本駅から浄行寺の間は、明治時代人力車時代の4間(けん)道路約7メートル幅の狭い道幅のままである。1950年ごろに2車線の都市計画道路として決定されたが、それから60数年も過ぎててもいつ着工するか熊本市からの返答はない。計画の拡幅部分については、永久構造物の建築許可不可のままである。 この区間の状況を説明する。都市バス第一環状線と昭和町線が67×2=134台の交通量があるが、時速30キロメートルの交通制限速度でもバス同士の離合は片方が道脇に停車して対向バスをやりすこず毎日が続いている。 この区間には、右折車線がーか所もない。先頭に右折車があれば後続車は渋滞する。旧国道3号との交差点、京町本丁交差点改良工事計画(10年以内に)があると聞くと、予算がつかないと実施計画もできないそうである。地元の説明はいつになるか不明だ。 この京町本丁交差点から上熊本駅に向かって約200メートルは左側の歩道が全くない。歩道がないので、車道を渡るしかない。私自身も横断中に転倒し怪我を負った。 また、この区間壺川小学校の通学道路になっている。小学校の安全協会のパトロールでの危険箇所1番目にあがっている。 この周辺には、京稜中学校、付属中学校、付属小学校の3校があるが、学校行事でかなり渋滞もある。上熊本から浄行寺間の歩道はほとんどが側溝を利用した幅1.3メートル程度の箇所が多く、歩道の縁石も低くして車の乗り上げ可能な状態だ。道路構造例の2・5メートル歩道は京稜中学校前約100メートルを漱石の記念緑道づくりで造成された区間だけである。</p> <p>都市計画事業は、どんな組織で、どんな基準で、だれが着工を決めるのだろうか。地元の要望の度合いといわれるが、行政主導なくして事業は進展しない。昭和40年ごろまで国道3号線は京町を通っていた。当時建設省(国)が現在の国道3号線にルートを変えたことを感謝しているが、これは行政主導の良い例だと思う。区画整理や下水道処理事業も然り。 平成5年ごろ、上熊本から京町本丁まで都市計画道の早期着工の陳情団で陳情した。1200人の署名も添えた。翌年度この区間の平面測量を実施したが、その後は予算の都合などで未着工だ。 震災復興などで大変だろうが、「ずっと住みたいまちづくり」のために、市長に現地を見てもらいたい。</p>	<p>ご質問の道路は、上熊本と北区龍田弓削を結ぶ都市計画道路上熊本弓削線として昭和21年に都市計画決定された道路で、実施にあたっては熊本市で事業を行う路線である。 一般的に都市計画決定された道路は、費用対効果や周辺道路の交通状況などを勘案し着手するか決めることになるが、上熊本弓削線については、沿線に建物が立ち並び、また地形的にも制約があることから対応に苦慮しているところ。 本市の道路整備は、限られた予算の中で事業を進めるため、事業の選択と集中を図りながら計画的に取り組んでいるところであり、ご理解とご協力をお願いする。</p>	都市建設局	道路整備課

No.	ご意見	回答	局	担当課
3	<p>(1)「市長とドンドン語ろう！」の運営について</p> <p>○問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットでは「市長とドンドン語ろう」「市長と意見交換」となっているが、実際は陳情的な意見に対する質疑応答に終始した。しかも、まとめて受けて、まとめて回答という方式で進行したため、タイトルの「語ろう」というイメージとは違う会であった。 ・市長が指名した発言者が、たまたま一つの校区に集中し不公平感を生じた。 ・1人の発言者が複数の話題について話したため、発言時間が長くなった。そのため発言したかった者に順番が回らなかった。 ・また、聞く側からすれば、首長と話すにはふさわしくない話題も含んでいたため(もっと大切なことを聞きたいのに、という気持ちが生じ)、さらに不信感を助長した。 ・参加者が発言の機会を待っている中で、前段の市長プレゼン終了までの40分は長かった。 <p>○改善の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長プレゼンにおいて「人口減少社会におけるまちづくりの必要性」は既知の話題であり、また、まちづくりセンターの紹介についてもパンフレットが配布されていることから、参加者の発言時間を確保するために前段を時間短縮できないか。 ・質疑応答ではなく、タウンミーティングに近い運営が望ましい。「語り合う」演出をした方がよい。 ・発言のルールを決めた方がよい。例えば、1人3分以内、1話題に限るなど。 ・校区間で平等にした方がよい。 ・全ての参加者が何らかの意思表示できるようにした方がよい。アンケート票や意見書、返信用封筒を参加者全員に配布してもよい。 <p>○提案(一例を示しています。直感で書いてますので詳細は要検討)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前段の説明を20分で終了する。 ・校区ごとにテーブルをつくり、まず校区での優先話題、話題の順位を話し合ってもらう。 ・市長が8～10分ずつ各校区のテーブルを回る。 ・市長が来たら優先話題についてテーブルで意見交換する。 ・市長が同じテーブルにつくことで市長と身近に話した感じになる。(出席校区数が少ない場合は2周できる) ・市長が他のテーブルを回っている時間は各校区のテーブルことに意見交換する。職員がファシリテーターを務め情報収集も兼ねる。他校区の陳情を聞かされるよりベター。 ・残り10分で、各テーブルで出された示唆に富む内容について全体に紹介する。または専門職員の補足説明とする。 	<p>【広聴課】</p> <p>今回、参加いただいた「市長とドンドン語ろう！in中央区」については、市長が地域に出かけ、市政に関する説明の後、参加者の皆様に本市のまちづくりなどについてご提案やご意見をお伺いする趣旨で開催しているものであり、限られた時間の中ではあるが、市長と直接対話することで、生の声を受け止め市政へ反映させるひとつの契機とさせていただいている。</p> <p>この直接対話の形式については、忌憚のないご意見を出していただけるよう、あえて、当日の会場にて挙手制でご発言、その場で市長が返答するという方法で運営している。</p> <p>ご指摘のとおり、参加者の皆様に十分な発言の機会を確保できていない状況であることも重々承知しており、これまでも、挙手された方に発言いただく順番を記載した紙をあらかじめお渡しするなど、参加者からの提案を採用しながら対策を講じてきた。</p> <p>タウンミーティングに近い運営をとのご提案であるが、今年度実施した「復興ミーティング」などはご提案の形式で運営し、市長や市の幹部が各テーブルを回り市民の皆様と直接意見交換を行ったもので、個別具体的な事業を展開する上での市民協働の手法として、大変有用であった。</p> <p>「市長とドンドン語ろう！」については、来年度まで現在の形式で全てのまちづくりセンターで開催するが、その後の広聴事業のあり方を検討する中で、今回のご提案を貴重なご意見として参考とさせていただきます。</p> <p>なお、市長から説明した「人口減少社会におけるまちづくりの必要性」は不要とのご意見については、参加者から、「初めて聞いた」、「もっと周知してほしい」などの声もあり、今後も時間配分に十分気をつけながら、丁寧に説明していきたい。また、発言者にはご意見を簡潔にまとめていただくよう、今後もお願いを続けていく。</p>	市民局	広聴課

No.	ご意見	回答	局	担当課
3	<p>(2) 本日参加して、まちづくりについて思ったこと ○コミュニティの維持について ・小学校区がコミュニティの単位であることは間違いない。これからも続くだろう。 ・都市間競争で熊本市への移住・定住を促進することが必要なように、校区間競争を意識し、我が街への誇りと愛着を持ってまちづくりに取り組んでいる。五福小学校を選んで入学・転入してくる家庭もある。逆に言えば、選んでもらえなければドーナツ化現象に耐えきれず、都市部の限界集落となり小学校統廃合の危機すらある。現に熊本五福幼稚園は市立としては廃園となった。つまり我が校区を選んでもらうことがコミュニティ維持にとって大問題である。</p> <p>○自治の強化と行政の役割の転換 ・これまでまちづくりの担い手ではなかった地域住民の多くが「自治ができる地域は幸福である」ことを、被災時とその後の対応で実感した。だから自治が必要であり、今後コミュニティを強めていくこと、助け合うことが大切なことはわかっている。 ・まちづくりは自治を強化する方向で進めるべきである。逆に行政は“小さな行政”に移行すべきである。(しかし、本日は自治で解決できず陳情の対象となっていた。このような昔の自治体体質は、今の若者とは価値観が異なるので共感できない現状がある。) ・人口減少社会において、行政縮小への移行だけではなく「転換」が必要である。その意味では「まちづくりセンター」はおもしろい試みであるため成功させたい。 ・但し、例えば景観のことで言えば、これまで開発景観課が来街していたが、地震後の大事な時期に全く街に寄り付かなくなった。行政の地域対応システムについては、試行錯誤をしながら確立していきたいところだ。</p>	<p>【地域活動推進課】 地域で日頃から、いろいろな世代やさまざまな意見を持った人たちがお互いを認め合いながら、自主自立のまちづくりに取り組んでいくことが重要で、その積み重ねが被災時に「地域力」として発揮されるものと考えます。 熊本地震後、自助、共助の地域づくりの支援の一環として、平成29年2月に「若者が輝ける地域づくりに向けて」というテーマでシンポジウムを開催したところである。 今後も校区自治協議会長等の役員や町内自治会長の研修での周知等により、校区単位のまちづくりを支援していきたい。</p> <p>【地域政策課】 地域が自立し、自主的にまちづくりを進めていくことを、まちづくりセンターを設置した大きな目的の一つとしている。今後とも、まちづくりセンター・区役所・本庁関係部署等全市をあげて、地域課題解決に向けた取り組みを進めるとともに、自主・自立のまちづくりに向けた支援を行ってまいりますので、ご支援・ご協力をお願いしたい。</p> <p>【開発景観課】 町屋の被害調査等にて古町地区には随時出向き、被災者の方とお話していたが、ご意見者と個別にお話できていなかった事についてお詫び申し上げます。今後新たな取組みとして、熊本市復興基金を活用した町屋の復旧支援を行うので、地域の方々のご支援・ご協力をお願いしたい。</p>	<p>局</p> <p>市民局</p> <p>都市建設局</p>	<p>担当課</p> <p>地域政策課</p> <p>地域活動推進課</p> <p>開発景観課</p>
3	<p>○古い街、古い建物の意義 ・「古さ」を残すのは単なるノスタルジーや観光客の集客のためではない。古いものを維持できない街は民度が低い。豊かな街は新しいもの、古いものがバランスよく立地している。これこそ行政と住民の協働作業が必要だ。 ・桜町再開発も単純にホールの回転数を挙げて集客を高め経済効果だけに目を向けても市民の幸福には繋がらない。新しいホールと古い町並み（市民生活）が併存することで初めて都市に深みが生まれ、ホールの価値が上がる。また、市民が単に辛島広場を使うという問題ではなく、市民に支持される取り組みが必要である。</p>	<p>【都心活性推進課】 熊本城につづく地区において、再開発の手法を活用し、熊本城ホールや、バスターミナル、商業施設、ホテル等を一体的に整備し、交流拠点を形成することとしている。また、シンボルプロムナードを含むオープンスペースの整備については、江戸期には、ここが広小路であったことや、花畑公園にお屋敷があったという歴史性を踏まえ、様々な意見を取り入れながら、デザインや設えの検討を進めている。 このような取組みを通じて、熊本城ホールとの相乗効果が高まるとともに、古い町並みと併存することで都市の深みが生まれるものと考えている。</p> <p>【開発景観課】 人々の暮らしが息づく町屋等の歴史的建造物が残る町並みは豊かさをもたらすものであり、城下町の風情を感じられる町並みづくりを今後も地域と協働で取り組んでいく。今後新たな取組みとして、人々の活動と歴史的価値の高い建物が一体となった市街地環境の向上を目指すため、熊本市歴史的風致維持向上計画の検討を行うので、地域の方々のご支援・ご協力をお願いしたい。</p>	<p>都市建設局</p>	<p>開発景観課</p> <p>都心活性推進課</p>

「ドンドン語ろう！in中央区」 （平成29年8月24日 市役所別館自転車駐車場8階会議室）開催時 **ご意見用紙**提出分 参加者：52名

No.	ご意見	回答	局	担当課
	○「上質な都市」を目指して ・「上質な都市」は共感できる。このイメージをもっと具体的に発信するといいいのではないか。	※ 当日発言で、別の方からの同趣旨のご意見あり。 市長からの回答を参照。		

No.	ご意見	回答	局	担当課
	<p>(1) 観光政策について 私は、元米国名門ホテルでコンシェルジュを勤めた経験を生かし、熊本観光の英語ガイド育成に尽力し、また、世界へ熊本を発信する活動を続けている。 大地震後、八代港は再開されたので、アジアからの観光局は戻ってきているが、欧米からの観光客はまだ戻ってきていない。 熊本城の復旧に20年かかるとのことだがこれを待ってはられない。国からの復興割引支援も終わった。これは、欧米からの観光客には関係なかった。 そこで、今後の観光政策について何か具体策があるのか、世界からの観光客を呼び戻すためにどのような計画、企画を立てているのか教えてほしい。</p>	<p>本市の観光客数は、震災直後に大きく落ち込んだ後、現在では地震前の水準を超えているが、国を挙げて外国人観光客の増にとり組む中、更なる誘客策を展開してまいりたい。 そこで、本市の外国人観光客の多数を占める中国や台湾などアジアからの更なる誘客を図りつつ、今後、2019年のラグビーワールドカップ・世界女子ハンドボール選手権、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、特にヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアなどの「欧米豪」諸国を新たなターゲットとして、県や九州各都市と連携した「オール熊本」・「オール九州」で、「KUMAMOTO」の知名度向上に向けたプロモーションに取り組むとともに、多言語表記などの受け入れ環境の整備に取り組んでいきたい。</p>	経済観光局	観光政策課
4	<p>(2) 市職員に対する「多文化共生」意識の啓発あるいは教育について 少子高齢化による労働人口の減少対策の一つとして、国は移民政策を進めていこうとしているが、熊本市にも海外、特にアジアからの労働力が必須になってくる。そのための「多文化共生」の意識を浸透、啓発するプログラム、プロジェクトを組むべきだ。 そして、まず、市職員にもっとその意識を啓発あるいは教育すべきである。特に地域担当職員へ。 そして、彼らが地域に出向いたとき地域の人々と共に学んでいくべきだと思う。</p>	<p>今後人口減少に伴う労働力を補う上で、外国人に頼らざるを得ない状況も想定される。本市の外国人住民の登録状況は、昨年末で4752人と年々増加しており、多様性を認め合い共に生活する多文化共生社会の推進は重要と言える。 本市では、国際交流振興事業団を中心に、多言語相談、市政だより多言語化、メールマガジン配信等の多文化共生まちづくりサポート事業、日本語支援事業、外国人のための防災事業、及び外国籍の子どもの支援事業に取り組むなど、多彩な多文化共生事業を展開している。 また、途上国の生産者に対する国際支援として、フェアトレード事業を展開しており、職員への啓発としてフェアトレード製品の紹介や販売等を行っている。 このような事業は、市政だより、国際交流会館のホームページ等で、周知を行っているところ。 今後とも、市民の皆様はもとより市職員向け情報提供を強化し、多文化共生への啓発に努めていく。</p>	政策局	国際課
5	<p>(1) 地域活動を行う民間企業の活用について 黒髪地区にてほぼ毎月第2日曜日午前10：00～12：00、地域住民の方々にお役立ち情報を届け続けて4年10ヶ月になる。 最近、自治会長の依頼で交流サロンにて相談に関する勉強会を行った。 私が取り組んでいる趣旨は同封している。自治会、ささえりあだけの活動では限界があると思う。行政も、このような活動をしている民間企業があることを頭に置いて、もう少しマルチ的目線で活動したらいかがだろうか。熊本を元気にしたい思いは一緒である。</p> <p>※添付資料あり ・「お助けイベント」実施趣旨説明文 ・今まで開催されてきたイベントの一覧 ・今後開催予定のイベント一覧 ・次回開催予定のイベントちらし</p>	<p>地域活動に民間企業の力を活用していくことは、地域コミュニティを維持する上でも重要であると認識しており、現在も、民間企業のみならず、大学や様々な団体と連携して地域課題の解決に向けて取り組んでいる。 今後も、引き続き地域と民間企業等の連携など、広がりのある取り組みを推進・支援してまいりたい。</p>	中央区役所	中央区まちづくりセンター